

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2690300021 | | |
| 法人名 | 株式会社SOYOKAZE | | |
| 事業所名 | 京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ) | | |
| 所在地 | 京都府京都市中京区壬生天池町24番地 | | |
| 自己評価作成日 | 2023年9月25日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年12月27日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoVoCd=2690300021-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---|
| 評価機関名 | 一般社団法人 京都ボランティア協会 |
| 所在地 | 〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1F |
| 訪問調査日 | 令和5年11月8日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域のお客様と24時間365日の生活を共にし、安心と穏やか、自宅での生活の延長でありたいと努めています。ご家族、介護職員、医療職等、多職種交え、利用者本位の生活を下支えし、成功事例失敗事例の共有と蓄積を行い、普段の生活でのふとした笑顔、仕草を楽しめる地域に愛される京都壬生ケアセンターそよ風でありたいと日々邁進しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2007年設立の当事業所は、デイサービスとショートステイを併設しています。新型コロナで世間が揺れる中、ここ3年間一人の罹患者もなく過ごすことができました。入居者も、以前は京都市内の各地から入居されていましたが、最近は近隣からの入居が多く、事業所は地域の認知症高齢者の受け皿として親しまれています。運営推進会議には数名のご家族の出席があり、踏み込んだ質疑応答がおこなわれます。また、事業所内では、各種行事の充実を図り、高尾や嵐山への紅葉ドライブ、春は植物園でバラ鑑賞などにも出かけています。面会も、早期に居室での面会ができています。さらに、看取りもおこない、この1年に数名の方がご家族や職員に見守られながら穏やかな最期を迎えられました。一方、食事は今年からクックチル(冷凍品の加熱処理)になりましたが、年2回の入居者への嗜好調査を反映した献立となっています。お寿司やケーキの取り寄せ、テイクアウト、食事・おやつレクリエーションなどで変化をつけ、普段と違う食の楽しみ方もされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人理念は私たちは「世界で一番、仲間を大切にすチーム」です。共感共創共生を実現する為にと有り又ユニットごとでユニット理念を考え実践している。ユニット理念は一日笑顔で過ごします。 | 法人理念のほか、ユニット理念を定め、不定期ではあるが見直しをしている。前は全員一致で、このままでよいということで、「1日笑顔で過ごします」の実践を心掛けている。理念はユニットの入り口に掲げている。さらに毎月の広報紙「そよ風通信」にもユニット理念を載せ、家族に送付して周知を図っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 運営推進会議開催ご家族地域の方に参加して頂いています。地域のイベントへの参加がまだ弱い。 | 町内会に入り回覧板を回しているが、グループホームが2階にある関係で、情報を普段の生活や支援に役立てることはない。各行事への招待も今はお互いにおこなえていない。入居者と地域の店に買い物に行き、配達をしてくれる馴染みのケーキ店や、ステーキ弁当などのテイクアウトで地域の店を利用している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議のヒヤリや事故の報告を見て頂いて又レク時の入居者様の実際の言葉等で、こんな事例が有る、こういう状況でこんな言葉を言われるという事を知って頂くよう努めている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 対面開催し意見交換行っている。 | 運営推進会議には数名の家族や入居者、地域包括支援センター職員などが出席し、資料をもとに、事業所の運営状況、行事、事故などの報告を受けている。「運営推進会議とは何ですか」などの質問や、「地域貢献をどのようにするのか」など、家族との活発な質疑応答がある。会議録は参加者と全家族、行政に配布している。 | 会議に家族が参加し、地域交流や終末期の対応などについても話し合っておられます。自治会長や民生委員など公的な立場の方の参加が少ないので、その方々に働きかけ、さらに有意義な会議にされるようお勧めします。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議録は区の担当課に提出している行政主催の会議には参加出来ない | 現在は行政主催の会議への参加はないが、介護保険関連の問い合わせや事故報告などで日常的に関わっている。京都市の医療衛生企画課に新型コロナウイルスの検査キットの受け取りに行った。消防訓練に消防署の立合いがある。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員研修を年2回、入社時に研修を行っている一歩外に出れば交通量が多く又不審者の侵入を防ぐ為入居者様を守る為施錠している。気分転換にガレージでの日光浴をおこない閉塞感の無いよう心がけている。 | 身体的拘束等の適正化の指針を作成している。毎月身体的拘束廃止適正化・虐待防止委員会を開催し、年2回全職員研修を実施し、職員はミニテストを受けている。足もとセンサー使用の方は、見守りと位置づけている。出たがる方、家に帰りたがる方には、話をして気分転換を図り、買い物と一緒に事業所内を歩く事で気分の変化がみられる。本人の特性を見極めて対応している。 | |

京都府 京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待は疑いも含めて重大な事故と認識を職員間で一致している | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 年間研修計画に位置付けしている。入居者様の中には後見人がついておられる方も数名おられ身近な物となっている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に不明な所は無いか必ず尋ねようとしている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱を設置している。家族面会時に必ず声かけ話をするようにしている。家族様に話しかけやすい雰囲気と思って頂けるよう心掛けている。 | 新型コロナの状況や、家族の意向を取り入れて面会方法を変えてきた。一時期は相談室でセッション越しに面会をすることもあった。現在は予約制ではあるが、居室内での面会もでき、家族との散歩も可能である。医師や歯科医の訪問時に同席させてほしいという家族の要望があり、応じている。食事形態変更の相談などにも家族の意見を聞いている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1度の全体会議で他部署との話し合いが出来る場を設けている。朝、夕の申し送り時や毎月のユニット会議が主な意見交換の場となっている。 | 本社からのアンケートを職員が直接本社に返送し、アンケート結果は本社が把握し、各事業所にも通知されている。各種会議の他、年1回管理者による面談があり、意見を述べる機会がある。勤務時間の変更希望などにも柔軟に対応してもらっている。休暇もとりやすく働きやすいと職員から聞き取った。 | 限られた人員の中で、一般職員が働きやすいのは好ましい事ですが、その分中堅層にシワ寄せが行くことも懸念されます。そうした配慮も踏まえた上での働き方改革であるよう期待します。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の思いを聴き取り職場環境の整備に取り組んでいる | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 月に1度施設内研修実施。事業所以外の研修を回覧し参加の機会を作っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人でオンラインや対面によるGH協議会を開催し意見交換、情報交換の場となっている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人、家族への面談聞き取り居宅ケアマネより情報収集を行いユニットで話し合う | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 面談で十分な聞き取り、相談、提案を行い関係作りに努めている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人の様子や訴え、家族からの情報から必要なサービスを見極め提供している | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の得意とする事、好きな家事を見極め日常的に依頼するようにしている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時に日頃の様子を詳しく伝え、本人の困りごとの解決の助言を頂くようにしている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 事前予約にて面談はオープンに行い、外泊、外出もして頂いている。 | 友人の来訪はないが、階下のデイサービス利用中の知人に会いに行ったり、同じ階で別のユニットに入居された知人に会いに行くなどの交流がある。家族の面会もある。手紙を出す方はおられないが、届いたはがきを本人に渡したり、電話の取次ぎの支援を職員がしている。歌の好きな方に歌詞カードを渡し、歌ってもらったり、動画配信で好きな歌を視聴してもらったり、一緒に貼り絵をするなどしている。デイサービスと合同でおこなう餅つきを見に行くこともある。洗濯物たたみやお膳拭きなどの家事も継続されている。法事や墓参りに家族と行かれる方、帰宅や外泊をされる方もある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員が間に入り話をもちかけるようにしている | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 相談の窓口の紹介を行い不安なく次へ移行出来るよう努め、問い合わせがあれば情報を提供し電話等で確認している | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者の言葉や表情、サインを読み取るよう努力している。不明な点は家族に確認している | 法人独自のアセスメント表を使用し、本人の状況を把握している。ようやくタブレット入力に慣れたと思っても職員の異動があり、また1からのスタートになる場合もあり、経過記録などへの記載内容が乏しい。日常的には本人の好きなお菓子を近くの店と一緒に買いに行く、マグロの好きな方にはマグロだけの寿司を誕生日に提供するなど、本人の思いを尊重した支援をしている。 | ケアチェック表をアセスメントと位置付けていますが、全体的に情報量が乏しく、そこから展開される課題分析が十分とは言えません。現状を踏まえた上で、本人は何を望み、何ができ、何を支援したらよりよい暮らし方ができるのかを明確に分析し、介護計画へとつなげられるよう期待します。そのためには本人の言動をしっかりと記録し、情報量を増やす工夫が望まれます。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時には必ず生活歴を聞き取り以前のケアマネより情報を頂く。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の生活の中での言葉や表情サインを見逃さないよう今のケアが本人様に合っているか確認するよう努めている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族の意見は面会時や電話で聞き取っている三か月に一度モニタリングを行い現状に即しているか確認している | 主治医、介護職、薬剤師、訪問マッサージ師、歯科医、家族などとの連携により本人の支援が成り立っている事を介護計画から読み取ることができる。計画は概ね1年で更新するが、急激な変化や認定期間満了などにより、さらに短期に変更することもある。いずれの場合も家族等に説明し同意をもらっている。モニタリングは3か月ごとにおこなない、介護計画の進捗状況を把握・検討している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケアカルテのシステム導入、iパットとパソコンで随時全ての記録を確認出来る。又申し送りノートも活用しており日々の細かな気づきや家族意向も確認出来る | | |

京都府 京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 臨機応変に動ける人材、その場その場での話し合いで対応している | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 訪問医療内科歯科の定期的な医療援助を行い訪問マッサージ、リハビリの先生とのお話を楽しみにされている方もおられる | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 契約時にかかりつけ医の確認、連携医院の紹介を実施し選んで頂くようにしている。24時間オンコールの確認も合わせ実施している。 | 在宅時のかかりつけ医を継続できる事を契約時に説明し、継続の方もいる。大多数が協力医療機関の定期訪問による診療を受け、必要時には往診も依頼している。協力医療機関に受診の場合は病院から迎えの車が来る。受診には家族が付き添い、事業所からは家族を通じて情報提供をしている。入院時はアセスメント情報などをファックスしている。退院時にはカンファレンスへの出席や、サマリーをもらい、事業所スタッフと共有している。希望する方のみ訪問での歯科診療を受けている。訪問マッサージを受けている方もある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 往診時には職員が立ち会っている。連携医院以外の方の受診時は日頃の様子や医師に伝えて欲しい事、残量が少なくなっている外用薬、頓服薬をもらって頂くよう家族に伝えている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院が決まればアセスメント用紙やおくすり手帳を提出。入院が長引くようであれば適時本人様の様子確認の電話を入れ病院とのコミュニケーションを図るようにしている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に契約書重説と共に重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針を説明。重度化した場合には家族、医師、そよ風の三者で話し合いの場を持つ。看取りが決まれば職員にその都度マニュアルの提示、研修を行っている | 看取り経験のない新しい職員には、管理者とケアマネジャーが丁寧に指導をしている。看取りのマニュアルや指針等は整備され、今年度も数名を看取っている。看取りの時は面会時間の制約をなくし、家族の宿泊も可能であり、簡易ベッドの用意もある。入居者が淋しくないように、リクライニングベッドでリビングのフロアで過ごしてもらったり、居室のドアを開けて楽しい雰囲気が伝わるようにするなどして見守っている。死後の家族支援についても指針に掲載し、家族が来られた時に、喪失感や悲しみの軽減への声かけするようにしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 事故発生時のマニュアルが有り、応急手当、連絡はマニュアルに沿って行動する | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回日中、夜間想定で避難訓練を行っている。1回は消防立ち会いでの訓練とし併設する施設合同で行う。備蓄は水、米、カセットコンロケア用品等3日分用意している | 避難訓練は敷地内の3施設が合同でおこなっている。通報後2階の避難口まで入居者と避難をしている。前回の消防署立ち会いの訓練では、夜間の地震から火災発生という想定で、入居者がベッドに寝ているところから階段を降りて避難するまでのタイムを測っている。事後に消防署のアドバイスをもとに職員間で検討している。コロナ禍以降地域の方への声かけはできていない。水害時には状況に応じてフロアで待機するか、早めに敷地内の他施設の4階に避難する予定である。リストがあり、3日分程度の水、ごはん、副食系の保存食等を備蓄している。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 常に入居者様の尊厳、羞恥心に気配りした言動を行うよう、職員同士注意しあえるような関係作りを心がけている | 年間研修の中に、接遇やプライバシーについての研修があり、新入職員には入職時研修もある。トイレ誘導時には直接的な表現はせず、職員間で話すときにも個人情報が入居者に漏れないように気を付けている。入浴時にはタオルをかけるなど羞恥心に配慮している。会議等でも入居者を「お客様」と表現し、ざっくばらんに話すこともあるが基本的には尊厳を守った声かけをするようにしている。職員に注意を促す場合は、あまり時間を置くと何を言われているのか分からないので、周囲に配慮しながら、その時にそっとうようにしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 話しかけやすい雰囲気作りに取り組み、空き時間にはなるべく入居者様と他愛の無い話から聞き取る力をつけるよう努めている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その人らしい生活をご本人の希望に出来るだけ沿えるようにしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 訪問美容の支援、またその人の好みに合った服装が出来るよう気配りしている。 | | |

京都府 京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 準備や片付けは重度化の為に一緒に出来ない。食の楽しみを増やすよう食事レクを行い、いつもと違った食事の提供をしている | 今年度より本社事業部のクックチルを導入している。みそ汁の具も本社に発注し、フロア内で調理している。一週間分まとめて送られる魚と肉の様々なメニューの中から毎日職員が前日と重ならないように選んで提供している。本社は嗜好調査を年2回こなしている。記入できない方からは、職員が聞き取り、入居者全員の調査報告を本部に返している。調査結果は本社から入居者家族に返送される。誕生日など特別の行事には寿司やケーキの出前をとったり、お正月には三段重(そよ風のおせち)を提供している。呑込みや噛む力の弱った方用に「やわらかおせち」も用意されている。おやつレクリエーションとしてフルーツポンチなどを皆で作って、楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ずつの摂取量記録を確認。必要な方には刻み食、ミキサー食、糖分を控えた食事の提供を行っている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケア実施し記録に残している。その方に応じたケア用品を使用している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個別に排泄記録を記入。その方に合わせた排便薬の調整を行っている。 | タブレットの記録から排泄パターンを把握し、声かけや誘導をしている。夜間は転倒防止のため職員がトイレに付き添う場合や、居室内でポータブルトイレを使用する方もある。歩行状態の悪い方はベッド上でパット交換をしている。在宅時にリハビリパンツにパットを着用するも、尿汚染が著しかった方で、入居後職員がこまめに見守りや声掛けをすることにより、現在は失禁もなく、リハビリパンツのみで清潔に過ごされている方がいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 起床時に乳製品の提供他、オリゴ糖や納豆にごま油等提供し、並行で医療職に相談し便秘解消に努めている。 | | |

京都府 京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 発熱しやすい方は週始めの月曜に入浴と決めているが他の方は特に決め無く、汚染がひどければその場ですぐ入浴して頂く事も有る | 入浴は週2回を基本とし、時間は決めず、職員配置を見て可能な時に設定している。希望により同性介助も可能である。湯は一人ずつ入れ替えている。浴室の壁側に多くの手すりがついている。入浴拒否のある方や体調面等で心配な方は、できるだけ週の初めに入浴日を設定するようにし、週2回の入浴確保を考えている。重度の方は2人介助をおこなっている。以前家族が希望され、看取りの方の最後の入浴を医師の許可と看護師立会いのもとでおこない、大変喜ばれた事がある。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 年齢、体力を考慮し必要と思われる方はお昼寝を誘導している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | お一人ずつのお薬説明書をすぐ確認出来るよう設置している。追加薬が有れば申し送りに何故必要か記入し各職員確認印を押すようにしている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個人に合わせた好まれるレクの提供、気分転換の方法を誘導している | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 花見や植物園、銭湯など外出レク開催し、他ガレージでの日光浴、外周散歩、寒暖に留意し行っている。 | 調理の業務が軽減されたため、外出に時間を割けるようになった。気候の良い時には周辺に散歩に出て、マンションの緑地の藤棚の下で休むこともある。近隣からの入居者は、「ここは〇〇さんの家」と説明され、表札を見るとちゃんと合っている。ゴミ出しや、お菓子を買いに近所のスーパーに行くこともある。事業所の2ニットは、広い廊下を挟んでつながっているため、入居者は普段から行き来している。外出行事で花見や紅葉狩りに行っている。家族と散歩やドライブに行かれる方もある。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭はトラブルが多く基本ご家族に保管頂いている、買い物レクは開催、小銭所持はお任せしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙については本人に受け渡し開封を手伝っている。電話は希望が有れば本人と変わって話して頂いている | | |

京都府 京都壬生ケアセンターそよ風(すみれ)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングは季節ごとに飾りつけをしている。作業をされる方は邪魔が入らないよう座り位置を工夫し声かけしている | 玄関は広く、事業所のある2階へのエレベーター内には椅子が用意されている。2つのユニットは中の通路から自由に行き来できる。リビング西側の大きな窓のレースカーテン越しに陽光が差し込む。洗面はリビングに面して2か所あり、認知症の周辺症状を防ぐために鏡にはシールドを貼っている。一人ずつテーブルを持ち、配置はその時の入居者の状況によって変えている。テレビを見ながら食事をする方もいる。日めくりカレンダーと季節の壁飾り、犬や猫のポスターなどを廊下に貼り、フロア内にはソファやラウンジチェアと足置きが置かれている。掃除は主に職員が夜間におこなうが、入居者用にほうきや塵取り、モップも用意している。空気清浄機などで事業所内の清潔に注意している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 少し離れたソファや机で過ごして頂いている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に今まで居たお部屋に近い状態にして下さいと話している。 | 日中は自室でくつろがれる入居者が多い。テレビを置き、アルバムや写真を飾っておられる。パソコンでゲームをしている方もいる。エアコン、カーテン、ベッド、引き出しのついたクローゼット、カウンターテーブルが予め備わっている。カウンターに椅子を配置して机として利用することもでき、椅子の持ち込みや貸し出しもある。応援している野球チームが優勝し、すぐにタンスにポスターを貼って楽しまれている入居者もある。車椅子利用や転倒防止のためか大きな家具はあまり見られない。ベッドの枕元にはナースコールが置かれ、ふらつきのある方には足元にセンサーを配置して安全に過ごせるようにしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 目印を作ったり置き場所の工夫をし自身で動けるようにしている | | |